



2日めはグループに分かれて浅草と原宿で自由行動。



すべての活動が終わった2日めの夜。いっしょに出かけた先での写真を見ながら話し込む。



中国の高校生は日本語で、日本の高校生は中国語で紙芝居をつくった。



グループでテーマを決めて身体で表現する活動。このグループは、「人類の進化（人类的进化）」を表現した。

事業データ

互いのことを学ぶ日中高校生交流プログラム「りんごの合宿」

期間 11月19日(水)～24日(月)
 場所 東京、神奈川
 主催 中等日本語課程設置校工作研究会、TJF
 助成 公益財団法人三菱 UFJ 国際財団
 輸送協力 ANA
 参加者 中国の高校生 18 名、日本の高校生 18 名、計 36 名

とにかく話す、たくさん話す

黙って歩き回ることから始めて、アイコンタクト、声を出して「你好」「こんにちは」、握手、とだんだん距離を縮めていく。最後はハイタッチ。



円になって、参加者が自由に考えたジェスチャーとことばをリレーする活動。写真はなにか重いものを手渡しているシーン。

中国語を学ぶ日本の高校生と、日本語を学ぶ中国の高校生が交流できるのは実質一日半。なるべくたくさん会話が生まれることを目標に、プログラムを組んだ。初対面で緊張気味の高校生たちがリラックスできるよう、身体をほぐす活動からスタート。特に日本の高校生は外国語で話すのをためらうことが多いので、身体動きに合わせて中国語と日本語を発する活動を、少しずつ取り入れていく。

心身ともにほぐれたところでグループにわかれて、中国語と日本語で好きなことばを選び、それを身体を使って表現する。大きなアクションをとったり、床に寝転がったり、教室くらいの大きさの部屋が熱気でムンムンしてくる。

自作の紙芝居を使って部屋を歩きまわりつつ全員に自己紹介する際には、三十六人の中国語と日本語が部屋中に響いていた。

写真：永沼敦子

美術作品に描かれた世界を身体で再現する。



合宿2014